

第37回 東京国際映画祭
Nippon Cinema Now 部門
正式出品

みんなもろい
街も、家族も、
わたしの心も

THE HARBOR LIGHTS

港に 灯が ともる

震災を知らない
わたしの物語

富田望生

伊藤万理華 青木柚 山之内すず 中川わさ美 MC NAM 田村健太郎

土村芳 渡辺真起子 山中崇 麻生祐未 甲本雅裕

監督・脚本 安達もじり 脚本 川島天見 音楽 世武裕子

エグゼクティブプロデューサー：大角正 プロデューサー：城谷厚司 堀之内礼二郎 安成洋 取材：京田光広 写真：平野愛
特別協力：全国映画センター 助成：●文化庁文化芸術振興費補助金（日本映画製作支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会
製作：ミナトスタジオ 配給：太秦 ©Minato Studio 2025 2025 年 / 119 分 / DCP / 日本

2025. 1.17 Fri.

minatomo117.jp



港に 灯が ともる

ストーリー

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯(富田望生)。在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして、姉・美悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐる、家族はさらに傾いていく——。なぜこの家族のもとに生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはいったいどうしたいのだろう——。



圧倒的な取材量を基に、 アフター震災世代をリアルに描く オリジナルストーリー

本作は2021年に公開した『心の傷を癒すということ』劇場版を契機に、表情豊かな港町・神戸から世界へ響く映像作品を届けようと立ち上げられた「ミナトスタジオ」の船出作品。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人びとへの膨大かつ綿密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。

富田望生

伊藤万理華 青木柚 山之内すず 中川わさ美 MC NAM 田村健太郎
土村芳 渡辺真起子 山中崇 麻生祐未 甲本雅裕

監督・脚本 安達もじり 脚本 川島天見 音楽 世武裕子

製作：ミナトスタジオ 配給：太秦 ©Minato Studio 2025 2025年／119分／DCP／日本



劇場情報は公式ウェブサイトをご覧ください。
minatomo117.jp

公式Instagram・Xアカウント：@minatomo117

阪神・淡路大震災から30年 ——— 2025年1月17日公開